

2020年度 第70回 六浦西地区 社明大会

子どもと子育てにやさしい地域へ
～明るい社会を実現するために私たちができること～

人権擁護委員 澤田紀美子さんの パネルディスカッション

- ◆開催日 2020年7月11日 10時～12時
- ◆実施場所 南川町内会館
- ◆参加メンバー
 - ・パネリスト 澤田紀美子さん（人権擁護委員）
 - ・パネラー 廣瀬隆夫（保護司）
大竹節子（更生保護女性会）
小林康代（元主任児童委員）
 - ・モデレーター 三瓶かおり（六浦西社協 事務局）

今年度の社明大会は、新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ、講演会形式ではなく、「社会を明るくする運動」の趣旨に基づき、少人数のパネルディスカッションを行い、その内容を要約し、紙面を通じて地域の皆さまにお届けすることといたしました。



六浦西地区社会福祉協議会
後援：六浦西地区町内会連合会

*HPで閲覧できます
(<https://bit.ly/3jcHmSG>)



子どもと子育てにやさしい地域へ



～明るい社会を実現するために私たちができること～

■ はじめに

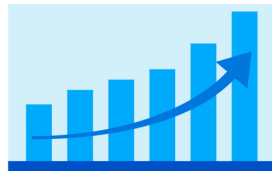
「銀も金も玉も何せむにまされる宝子にしかめやも」という山上憶良の有名な万葉集に詠まれた和歌がありますが、日本は昔から子どもを宝のように可愛がって育てていたんです。そんな日本で、とても信じられない虐待やいじめが起きています。その背景には、家庭崩壊や貧困などの複雑な社会問題が絡んでいると言われていています。本日は、その問題の背景や原因を考え、解決策の糸口を見つけるところまで踏み込んで、議論ができれば良いなと思っています。



■ 児童虐待の現状

2020（令和2）年3月の警察庁の報告によりますと、2012年は16,387人だったのですが、2019年の児童虐待数は98,222人（神奈川県 11,119人）となっており、毎年増えています。

質問：この警察庁の統計で、虐待の数が急激に増えていることが分かりましたが、それ以前は、どのような傾向だったのでしょうか？



澤田：虐待が世間で注目されるようになるその前は、あまり虐待ということ自体が意識されていなかったのです。子どもに手を挙げても躰けと捉えられていた時代だったのですね。

質問：警察の統計を見ますと神奈川県が多いですね。全国で一割というのは多いんじゃないでしょうか？

澤田：そうですね。東京を除いてやはり都市化が影響していると思います。神奈川県は、通報の仕組みがうまくできているので、多くなっていることも考えられると思います。

■ 育児不安の問題

虐待の原因に育児不安があり、研究では、次の4つに分類されています。

- ① 泣き止んでくれないことを不快に思う
「育児についての不快感情」
- ② 赤ちゃんの体や心の発達に心配になる
「子どもの成長・発達についての不安」
- ③ 育児に自信が持てなくなる「母親自身の育児能力に関する不安」
- ④ 子育てで自分の生活が制限されてしまう「育児負担感・拘束感による不安」



質問：育児不安を解消するためにはどうしたら良いのでしょうか。

澤田：私が子どもを生んだときに、赤ちゃんが泣き止まないで困っていましたが、主人の母が、「赤ちゃんはね、泣くのが商売だから放っておいていいのよ」と言われて、そうなんだ、と安心したことがありました。こういう経験者のアドバイスは貴重ですね。



質問：赤ちゃんを放ったらかして八日間も遊びに行ってしまった親の話がありました。

澤田：いちばん手がかかるのは赤ちゃんの時ですが、それを負担に感じてしまうのですね。もっと子育てを楽しんだら良いと思います。本来、子育ては楽しいものです。最近では、育児不安をサポートする行政上のシステムも増えていきますので大事になる前に、相談してもらいたいですね。

■ 現在の子どもたちの特徴

最近の子どもたちの中には、自己肯定感が乏しい、褒められたことがない、免疫がなく傷つきやすい、コミュニケーション能力が低い、自己主張ができない、などの特徴が見受けられるそうです。

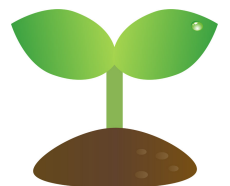
質問：自己肯定感というのは具体的にどんなことですか？

澤田：昔は、かけっこが速い子は運動会で頑張るとか、それぞれでヒーローになれるシーンがあったんです。自分は認められているとか、自慢できる場所があるなど、自分に自信を持てる感覚が自己肯定感です。今は、平均点で評価して、まんべんなくできる子が良い子なので、とにかく、今の子は褒めてもらえないそうです。子どものしていることを認めて褒めて育てるということも重要ですね。



質問：最近では、子どもの個性がなくなっているように感じます。

澤田：一人ひとりが違うことを考えられる多様性のある社会の方が健全なんです。災害のときなども、これを改造して使おうなんていうアイデアがでるんです。子どもは、みんな違った良い面を持っています。それぞれの個性を伸ばして育てたいですね。



質問：ちょっと悪口を言われただけで傷ついてしまう子が多いですね。

澤田：悪口を言う人は、悪意があるから勝手なことを言うんです。その悪口をそのまま受け取る必要はないんです。自分で理不尽だと思ったら、その言葉を受け取らなければ傷つくことはないんです。自分の考えを持って、悪口を跳ね返すくらいの強い精神力を身に付けて欲しいですね。

■ いじめや虐待の背景

問題の背景には、格差社会、核家族化と地域力の弱体化、家庭中心で子ども会など横の繋がりの希薄化、自治会町内会に参加しない人の増加、家や建物の構造が密接化し地域の目が届きにくい、家族の危機のきざし、不寛容の広がりなどが考えられます。

質問：今はみんな忙しくなって、人と人とのつながりが少なくなってきたように感じます。

澤田：前に、マザー・テレサが来日した時に、日本はモノは豊かだけど、心が貧しいと言っていました。本当にそうですね。するどいですね。今の日本の本質を言い当てていますものね。もっと心を豊かにしたいですね。

■ 子どもの虐待を減らすために重要なこと

まず、注意深く子どもたちを見守ることで。不自然な傷やアザがある、着衣や髪の毛がいつも汚れている、食事を与えられていない、ひんぱんに怒鳴られ、ひどく泣いている、夜遅くまで一人で遊んでいる、など子どもは必ずシグナルを発しています。



すこし、お節介じゃないかと思えても子どもたちへの声かけをしてください。そして、少しでも何か変だと思ったら、自分だけで考えていないで、だれかに知らせてください。近所で話し合っただけで情報を共有することが問題を解決する糸口になります。

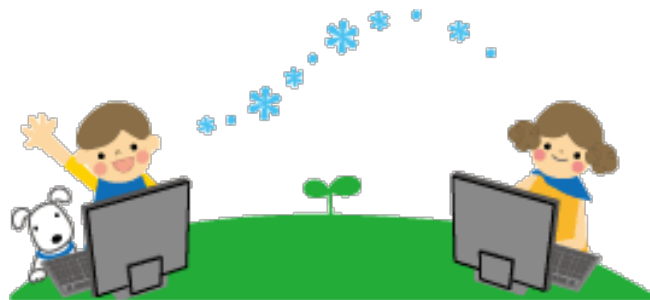
■ 私たちが地域でできること

司会：それでは今回のテーマでもある、地域で活動する中で虐待やいじめを無くすためには、私たちはなにができるかについて、パネラーのみなさんからご意見を出していただきたいと思います。

意見：家の近くに公園があるので子どもたちを見守っているのですが、昔みたいにみんなで遊ぶのではなく、4、5人でグループを作ってお菓子を食べたりして遊んでいます。グループに入れたい子は仲間になれなくて見ているだけなんです。そんな時は、もう一歩踏み込んだ方がいいのかしら、と複雑な思いを心に描きながら見えています。これから、地域の子どもたちを見守っていきたく思います。

意見：子どもたちを地域で育てていける環境が必要だと思います。今、若いお母さんや子どもたちは、スマホでLINEとかインスタグラムとかやっていますので、ネット上に、昔たくさんあった広場のように交流できるスペースを作って、みんなでワイワイガヤガヤ遊んだり、気軽に子育ての情報交換ができるようになったら良いなと思っています。

意見：先生方が忙しくて地域の手助けが欲しいという要望があるんです。QRコードをスマホで読んで名簿がなくても申込みができるようなシステムを作って、学校と地域がつながりやすくなるような仕掛けを考えていきたいです。



澤田：素晴らしいアイデアですね。外国では、いじめの相談ができるサイトが結構できています。ふだん、なかなか言えないことを、こういう場では言えるということがあるんじゃないでしょうか。これからは、ネットとかLINEなどの仕組みを大いに活用すべきだと思いますね。

■ おわりに

司会：最後に澤田さんが23年間の人権擁護委員をされてきて大切に思うことをお話ください。

澤田：天気の良い日に窓を開けて青い空を見れば気持ちいいし、花はキレイだし樹木は青々と茂っていて世界は素晴らしいじゃないですか。たぶん動物たちは、この地球に生きていることに感謝して、今を一生懸命に生きているのだと思います。自灯明という言葉がありますが、みんな自分自身の中に良いものを必ず持っています。その良いものを見つけ出して体とハートで、育てて行くことが大切だと思います。そして、何事も良い方向に目を向けること。その方が幸せじゃないですか。本日はありがとうございました。



司会：澤田さん、有意義なお話、ありがとうございました。子育てを楽しむ、個性を尊重する、観察する、声をかける、情報交換を活発に行う、スマホなどのネットを活用する、など様々な意見がでました。この中から少しでも具体的に形にできるものが出てきたらいいなと思っています。みなさん、本日は、本当にありがとうございました。

地域みんなで子育てしよう！

たくさんの子育てサポーターがいろんな活動や支援をしています。
参加してみませんか？お話ししてみませんか？

♡子ども・家庭支援相談♡

乳幼児期から思春期までを対象とした総合窓口。
幼児期の子育て、学童期のいじめ、不登校、
思春期の子どものことなど気軽に声をかけてください。
子育てが辛い、育てにくい、相談相手がいない、
虐待してしまいそうといった内容も迷わずご相談ください。

(問合せ) 金沢区福祉保健センター こども家庭支援課
TEL 045-788-7728 8:45~17:00 (月~金)



♡子育てサロン♡

* 「はぐ・はぐ六浦南」

第1・3火曜日 六浦南コミュニティハウスにて

* 「はぐ・はぐ大道」

第2・4火曜日 大道コミュニティハウスにて

10:00~14:00

入園前の親子が自由に集える、地域のフリースペースです。お母さん同士のおしゃべりや息抜き、
友達作りや情報交換の場になっています。

※新型コロナウイルス感染症対策のため開催場所や参加方法
が変更になっています。詳細は町内掲示板をご覧ください
地域の主任児童委員にお尋ねください。

♡横浜子育てサポートシステム♡

会員制の有償ささえあい活動。

リフレッシュが必要、

保育園のお迎えに間に合わない、
上の子の行事の時預かって欲しいなどなど。

(問合せ・申込み) 金沢区支部事務局
地域子育て支援拠点「とことこ」内
専用ダイヤル：045-352-7110



◀パネルディスカッションの様子

今回は人権擁護委員の澤田紀美子さんをお招き
し、たくさんのお話を伺うことができました。

■パネリスト 澤田紀美子さんのプロフィール

- ・1943年 岐阜県に生まれる
- ・1991年 金沢区ミセススポーツ連絡会 会長
- ・1997年~現在 人権擁護委員 (法務大臣から委嘱)
- ・2002年~現在 金沢区更生保護女性会 会員
- ・2007年~現在 横浜市感染症診査協議会 (結核分科会) 委員

発行：六浦西地区社会福祉協議会